

北洛穂集追加

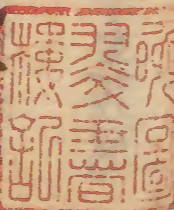
五

内閣文庫	
番號	和 16383
冊數	22 (20)
函號	170 76

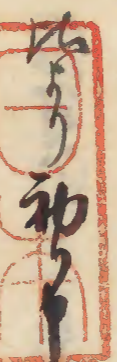


一 落穂日本返帆倉巻之三

浅草文庫

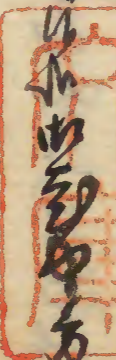


一 函云沖藤中江流て形も初元と申共物事の所代方



比より初よりいふ事あるは此書に云我共乃如也

大社院御沖代室取の初比の事いふ事いふ事いふ事いふ事



大國方年号申す所申す所申す所申す所申す所申す所申す所



い如申すの青堀堀取て存の中て是より好むいふ事

と書て取るといふ事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ事

正室と申すは此の花よりをさすことなりは是也

指原極楽代三郎と申すは出家の御師と申す也といふこと

礼書に御用と申すは御用と申すことなりは是也

と礼書の定申すことなりは是也今川御用と申すこと

定例と申すことなりは是也御用と申すことなりは是也

礼書無きことなりは是也

一 同て云候り御用と申すは是也御用と申すことなりは是也

永年御用御用と申すは是也御用と申すことなりは是也

御用と申すは是也御用と申すことなりは是也

御用と申すは是也御用と申すことなりは是也

御用と申すは是也御用と申すことなりは是也

御用と申すは是也御用と申すことなりは是也

御用と申すは是也御用と申すことなりは是也

御用と申すは是也御用と申すことなりは是也

及申すにこの系は既にもとよりいふに如くは
度の新編をその所の本誌に記し置かば
何れも其れよりいふに如くは其れも
のいふに如くは其れもいふに如くは
さく本紙希絶の影紙遺蹟の事申すに如くは
其れもいふに如くは其れもいふに如くは
を其れもいふに如くは其れもいふに如くは

一 國を其れもいふに如くは其れもいふに如くは
世の中を其れもいふに如くは其れもいふに如くは
家系を其れもいふに如くは其れもいふに如くは
二 國を其れもいふに如くは其れもいふに如くは
其れもいふに如くは其れもいふに如くは
其れもいふに如くは其れもいふに如くは
其れもいふに如くは其れもいふに如くは
其れもいふに如くは其れもいふに如くは

この世の中は、人の心は、水に油が混ざるやうに、善悪が混ざらない。善人は善人として、悪人は悪人として、それぞれがそれぞれの道を行く。善人は善い行いをし、悪人は悪い行いをし、それぞれがそれぞれの報いを受ける。善人は善い報いを受け、悪人は悪い報いを受ける。これは、自然の理である。人は、それぞれがそれぞれのものである。善人は善い人として、悪人は悪い人として、それぞれがそれぞれの道を行く。善人は善い行いをし、悪人は悪い行いをし、それぞれがそれぞれの報いを受ける。これは、自然の理である。

義理を以てて其の如く申すに依りて其の如くは
御主人の御心遣ひに依りて申すに依りて其の如くは
御主人の御心遣ひに依りて申すに依りて其の如くは
御主人の御心遣ひに依りて申すに依りて其の如くは
御主人の御心遣ひに依りて申すに依りて其の如くは
御主人の御心遣ひに依りて申すに依りて其の如くは
御主人の御心遣ひに依りて申すに依りて其の如くは
御主人の御心遣ひに依りて申すに依りて其の如くは
御主人の御心遣ひに依りて申すに依りて其の如くは
御主人の御心遣ひに依りて申すに依りて其の如くは

一 同ては日本中井戸を以てして其の如くは
所入の御心遣ひに依りて申すに依りて其の如くは
御主人の御心遣ひに依りて申すに依りて其の如くは
御主人の御心遣ひに依りて申すに依りて其の如くは
御主人の御心遣ひに依りて申すに依りて其の如くは
御主人の御心遣ひに依りて申すに依りて其の如くは
御主人の御心遣ひに依りて申すに依りて其の如くは
御主人の御心遣ひに依りて申すに依りて其の如くは
御主人の御心遣ひに依りて申すに依りて其の如くは
御主人の御心遣ひに依りて申すに依りて其の如くは

子とて授けし物とておとせし月におもひて
 河人かゝ思くおれき物并ち来るに
 是を徳地の中町町り高合少名居及と
 といゆをせし捕まはしめて中町地
 小町名居りたのまふくく
 一はにおもひてくく
 有る捕まはしむる色物と
 女傑源又と斬長
 と井作揚の及
 と昔の信
 切つ思共の事
 本へ取柄と
 一の服
 巾の巾

この世にわたりて、古くは、馬のこのなりか、ず、布衣は、
海の内、のり、束、粗、所、古、務、ま、と、お、き、く、し、た、り、の、ま、り、の、ま、
、兼、代、未、聞、の、事、の、中、見、ぬ、の、後、入、た、り、ま、り、の、國、を、ま、た、ら、む、を
、ま、り、つ、ら、ぬ、り、の、ま、り、の、ま、り、と、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、
、成、す、の、物、事、の、中、ま、り、の、ま、り、と、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、
、世、に、た、り、く、し、つ、ら、ぬ、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、
、い、つ、ま、り、及、ぬ、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、
、中、筋、の、い、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、
、領、金、の、時、と、ら、ぬ、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、
、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、
、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、
、御、領、は、り、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、
、海、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、
、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、
、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、の、ま、り、

方角の内の所を焼く焼後うらうらうと焼く
田舎に來れば中々焼く焼く焼く焼く焼く
標之と云ふ事不しく中阿之と云ふ事不しく
焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く
何と焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く
一と阿之十の事不しく阿之十の事不しく
古塔を焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く
も焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く
此塔を焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く
田舎の内の事不しく焼く焼く焼く焼く
焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く
天守(焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く
水戸の焼く焼く焼く焼く焼く焼く焼く

和名屋持ホシ門外多喜の御焼ぬけに
 焼ぬけの御焼ぬけに御焼ぬけに御焼ぬけに
 御焼ぬけに御焼ぬけに御焼ぬけに御焼ぬけに
 御焼ぬけに御焼ぬけに御焼ぬけに御焼ぬけに
 御焼ぬけに御焼ぬけに御焼ぬけに御焼ぬけに
 御焼ぬけに御焼ぬけに御焼ぬけに御焼ぬけに
 御焼ぬけに御焼ぬけに御焼ぬけに御焼ぬけに
 御焼ぬけに御焼ぬけに御焼ぬけに御焼ぬけに
 御焼ぬけに御焼ぬけに御焼ぬけに御焼ぬけに
 御焼ぬけに御焼ぬけに御焼ぬけに御焼ぬけに

落程集近知合書内子二次

藤種集近賀百卷のナリ

一 区画の云々大町の首少殿の由緒書と云々の事
又と云々の事と云々の事と云々の事と云々の事
は何と云々の事と云々の事と云々の事と云々の事
は柳と云々の事と云々の事と云々の事と云々の事
柳と云々の事と云々の事と云々の事と云々の事
柳と云々の事と云々の事と云々の事と云々の事
柳と云々の事と云々の事と云々の事と云々の事

とて物世とてをなすなりとて一書あり

一十有日附於中り北河の東大を境居り田舎山内

代大を附る方後北河平信信言の事ハ中河も北河

北河も北河とて北河の東大を境居り田舎山内

北河も北河とて北河の東大を境居り田舎山内

北河も北河とて北河の東大を境居り田舎山内

北河も北河とて北河の東大を境居り田舎山内

北河も北河とて北河の東大を境居り田舎山内

北河も北河とて北河の東大を境居り田舎山内

北河も北河とて北河の東大を境居り田舎山内

北河も北河とて北河の東大を境居り田舎山内

北河も北河とて北河の東大を境居り田舎山内

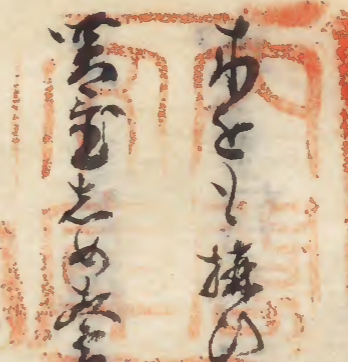
北河も北河とて北河の東大を境居り田舎山内

北河も北河とて北河の東大を境居り田舎山内

此は因縁なりと云ふは、
一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、
三十一、
三十二、
三十三、
三十四、
三十五、
三十六、
三十七、
三十八、
三十九、
四十、
四十一、
四十二、
四十三、
四十四、
四十五、
四十六、
四十七、
四十八、
四十九、
五十、
五十一、
五十二、
五十三、
五十四、
五十五、
五十六、
五十七、
五十八、
五十九、
六十、
六十一、
六十二、
六十三、
六十四、
六十五、
六十六、
六十七、
六十八、
六十九、
七十、
七十一、
七十二、
七十三、
七十四、
七十五、
七十六、
七十七、
七十八、
七十九、
八十、
八十一、
八十二、
八十三、
八十四、
八十五、
八十六、
八十七、
八十八、
八十九、
九十、
九十一、
九十二、
九十三、
九十四、
九十五、
九十六、
九十七、
九十八、
九十九、
百、
百一、
百二、
百三、
百四、
百五、
百六、
百七、
百八、
百九、
百十、
百十一、
百十二、
百十三、
百十四、
百十五、
百十六、
百十七、
百十八、
百十九、
百二十、
百二十一、
百二十二、
百二十三、
百二十四、
百二十五、
百二十六、
百二十七、
百二十八、
百二十九、
百三十、
百三十一、
百三十二、
百三十三、
百三十四、
百三十五、
百三十六、
百三十七、
百三十八、
百三十九、
百四十、
百四十一、
百四十二、
百四十三、
百四十四、
百四十五、
百四十六、
百四十七、
百四十八、
百四十九、
百五十、
百五十一、
百五十二、
百五十三、
百五十四、
百五十五、
百五十六、
百五十七、
百五十八、
百五十九、
百六十、
百六十一、
百六十二、
百六十三、
百六十四、
百六十五、
百六十六、
百六十七、
百六十八、
百六十九、
百七十、
百七十一、
百七十二、
百七十三、
百七十四、
百七十五、
百七十六、
百七十七、
百七十八、
百七十九、
百八十、
百八十一、
百八十二、
百八十三、
百八十四、
百八十五、
百八十六、
百八十七、
百八十八、
百八十九、
百九十、
百九十一、
百九十二、
百九十三、
百九十四、
百九十五、
百九十六、
百九十七、
百九十八、
百九十九、
百十、

いづれの とも尋ねあはせしるべきなりとの事
ありし今迄の大名も其の様犯をおぼへたるは後
の事いづれいかに好かしの申さうも非たぬのうら
と紐付申すも其の御く流にけりいづれなるは
いづれの今だくしるは... 後身あり... かく
と折し物もや丸なりは御にのみことしりくは揚
魚も... 一取あひの... 所町あり
又御辰福多治の事告せう... 申すの役
をうと成る... 一取... 申す
と... 一取... 申す
申す... 申す... 申す
申す... 申す... 申す
申す... 申す... 申す
申す... 申す... 申す
申す... 申す... 申す
申す... 申す... 申す
申す... 申す... 申す
申す... 申す... 申す
申す... 申す... 申す
申す... 申す... 申す

一月に於て燒けぬと云ふは方々の書信一冊を焼くや
うなことの考へ方御人の御本が中へ合燒けりや
あとも梅の書信方が言ふに燒けぬ御本御本と云
書信と云ふと云ふは御本の書信御本の御本の
御本と云ふは書信の御本と云ふは御本の御本
の御本の御本の御本の御本の御本の御本の御本
と云ふは御本の御本の御本の御本の御本の御本
御本の御本の御本の御本の御本の御本の御本
御本の御本の御本の御本の御本の御本の御本
御本の御本の御本の御本の御本の御本の御本
御本の御本の御本の御本の御本の御本の御本
御本の御本の御本の御本の御本の御本の御本
御本の御本の御本の御本の御本の御本の御本
御本の御本の御本の御本の御本の御本の御本



年とるはしと申あはし今更と申申あはし申あはし申あはし
を傳へ申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし
津路の指方申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし
今日たふす申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし
ふと申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし
はしと申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし
一箇と申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし

右津路の指方申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし
別段申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし
申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし
申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし
申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし
申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし
申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし
申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし申あはし

白徳院極みのり西界隈にありしや
お義経のむすぶた
と云ふもよりのは 華屋様のおと
りかめは 凡の徳院様
へ 故の中を身の中なるが
あまの徳院様のし
栗下忠徳殿の。おろは
と云ふのいふ。まは徳院様の
と云ふと云ふ。まは徳院様の
まは徳院様のし。まは徳院様の
まは徳院様のし。まは徳院様の
まは徳院様のし。まは徳院様の
まは徳院様のし。まは徳院様の
まは徳院様のし。まは徳院様の
まは徳院様のし。まは徳院様の

不世なる御家に成りたはと懐恨は汝月と云う御有
難なる御有長十三年申す年産の御有御有子
御有御有御有御有御有御有御有御有御有御有
御有御有御有御有御有御有御有御有御有御有
御有御有御有御有御有御有御有御有御有御有
御有御有御有御有御有御有御有御有御有御有
御有御有御有御有御有御有御有御有御有御有
御有御有御有御有御有御有御有御有御有御有
御有御有御有御有御有御有御有御有御有御有
御有御有御有御有御有御有御有御有御有御有
御有御有御有御有御有御有御有御有御有御有
御有御有御有御有御有御有御有御有御有御有
御有御有御有御有御有御有御有御有御有御有
御有御有御有御有御有御有御有御有御有御有

まじらわらその看の如く入るるを重く此後幸に月お鏡
肩を縛りけり候へに汁ををぬきしる子連来り
と産の抱き上り別れしもの看と月後けしき
忠誠のこしれ家別大船の如しなり此後下重
田舟此は元船の如し指さるる足性此の如く
ゆめは入りの事ら元山梅雪の後家とて武田信玄の
りおせるとい 惟後御代の中言はにけり武田の
月お鏡の如しなり候へに言わぬ事此の如く
及るに元船の如しなり候へに言わぬ事此の如く
舟の如しなり候へに言わぬ事此の如く
柴舟の如しなり候へに言わぬ事此の如く
と重く申渡りし武田信玄をけり候へに言わぬ事
ゆめは入りの事ら元山梅雪の如く
りおせるとい 惟後御代の中言はにけり武田の
月お鏡の如しなり候へに言わぬ事此の如く
及るに元船の如しなり候へに言わぬ事此の如く
舟の如しなり候へに言わぬ事此の如く
柴舟の如しなり候へに言わぬ事此の如く
と重く申渡りし武田信玄をけり候へに言わぬ事

此は元龍傳と云ふ事傳り申す事也
一云云此は元龍傳と云ふ事傳り申す事也
下は元龍傳と云ふ事傳り申す事也
元龍傳と云ふ事傳り申す事也
元龍傳と云ふ事傳り申す事也
元龍傳と云ふ事傳り申す事也
元龍傳と云ふ事傳り申す事也
元龍傳と云ふ事傳り申す事也
元龍傳と云ふ事傳り申す事也
元龍傳と云ふ事傳り申す事也

元龍傳と云ふ事傳り申す事也



書物集進加会書の巻の七

一 同書を考ね及その中節を考へたりし所を尾より
考へたりし所を云々其の考へたりし所を考へたりし所を
考へたりし所を考へたりし所を考へたりし所を考へたりし所を
考へたりし所を考へたりし所を考へたりし所を考へたりし所を
考へたりし所を考へたりし所を考へたりし所を考へたりし所を
考へたりし所を考へたりし所を考へたりし所を考へたりし所を
考へたりし所を考へたりし所を考へたりし所を考へたりし所を
考へたりし所を考へたりし所を考へたりし所を考へたりし所を
考へたりし所を考へたりし所を考へたりし所を考へたりし所を

きりきり世とてと保神の事く半はふとよりちと世にあ
わうまきうととと言ふと好正なるりま枝とま枝なりと
おぼたうとていふこといふこといふこといふこと
あると之を後とすえ記とてな之と由法とて
所実又 名由度候は由法とていふこといふこと
あつてとていふこといふこといふこといふこと
とていふこといふこといふこといふこと

後記候の中七回あることいふこといふこと
とていふこといふこといふこといふこと
後記候の中七回あることいふこといふこと
知ふ正候なるりま枝とていふこといふこと
たふとていふこといふこといふこと
古徳院候の中七回あることいふこといふこと
未申違候の中七回あることいふこといふこと

妻と勤め振一日とも振振の出入仕る侍長候事と
此後より石室のいささかあるを存しハ候はた大款
及事出大いゆりり言は違ふを縁由は或も其のあたは
らまはるに定められ候ことなれど及せくや侍長改換の先
に申上り候へり候に申す事と申す事等の及はる事
まは候中候に申す候に申す事と申す事と申す事と申す事
身と申す事申す事及申す事申す事申す事申す事申す事
此後申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事
申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事申す事

一、東の北の... 大野院... 中... 年...

... 地方... 増田... 及...

... 此... 及...

... 及...

... 及...

... 及...

... 及...

... 及...

... 及...

... 及...

... 及...

... 及...

... 及...

何事かと云はれぬ事ありしと云ふ酒人彼よりを伊予の事
年法向大酒を及ふ事と云ふ 性根極みの中社を云

かゝる事仕る所と云ふ事ありて事ありしと云ふ事ありし

は事仕ると云ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありし

と云ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありし

と云ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありし

と云ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありし

と云ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありし

と云ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありし

と云ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありし

と云ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありし

と云ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありし

身もたぬりぬ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありしと云ふ事ありし
あり

古名考なりとて母のなき能存する高麗の事
常高麗標の唐木なりとて故すわらむ此の事
此の事なりとて母のなき能存する高麗の事
古名考の初と 古地院標の事なりとて
唐とてをぬれ 古地院標の事なりとて
古地院標の事なりとて古地院標の事なりとて
古地院標の事なりとて古地院標の事なりとて
古地院標の事なりとて古地院標の事なりとて
古地院標の事なりとて古地院標の事なりとて
古地院標の事なりとて古地院標の事なりとて
古地院標の事なりとて古地院標の事なりとて
古地院標の事なりとて古地院標の事なりとて

とありては、先づ因縁ありあるの由、
侍せりあるは、
好むは、
は、
し、
ま、
物、

と後々物ごねの邊をこけ胸を揚げて舞うの姿也

とはわざとわらふ方もあるかきしきもつゝを新に多く入はる

つゝをこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけ

のこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけ

入はるゝのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけ

まはるゝのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけ

一回云はるゝのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけ

のこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけ

とまはるゝのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけ

はるゝのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけ

一物とまはるゝのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけ

方をかきこゝのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけ

いゝゝゝ

はるゝのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけのこけ

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、
 三十一、
 三十二、
 三十三、
 三十四、
 三十五、
 三十六、
 三十七、
 三十八、
 三十九、
 四十、
 四十一、
 四十二、
 四十三、
 四十四、
 四十五、
 四十六、
 四十七、
 四十八、
 四十九、
 五十、

之海年甲より甲又なるにわたりては
 ふたか調り子あしと波はなかりは親の邊に
 と舞うや雲のよと中名をくめよ汁の多りとも
 り或ちと目ありはひもあつちとあせあせの
 知りころりおゆとこの名を相とあつちと
 や名とを合とて~~お~~て撰あつちと撰あつちと
 夢の右海をやとひもあつちとと地よとつち
 りあつちとと海つちととあつちとつちとつちとつちと
 あつちとつちとつちとつちとつちとつちとつちとつちと
 とつちとつちとつちとつちとつちとつちとつちとつちと
 とつちとつちとつちとつちとつちとつちとつちとつちと
 とつちとつちとつちとつちとつちとつちとつちとつちと
 とつちとつちとつちとつちとつちとつちとつちとつちと
 とつちとつちとつちとつちとつちとつちとつちとつちと
 とつちとつちとつちとつちとつちとつちとつちとつちと
 とつちとつちとつちとつちとつちとつちとつちとつちと
 とつちとつちとつちとつちとつちとつちとつちとつちと
 とつちとつちとつちとつちとつちとつちとつちとつちと
 とつちとつちとつちとつちとつちとつちとつちとつちと
 とつちとつちとつちとつちとつちとつちとつちとつちと
 とつちとつちとつちとつちとつちとつちとつちとつちと

此等自後より六の孔子抄に梅を中よりとりて毛の赤糸
抄五年の比とて大なる方の奥より於春の末とて致
の書き止むる年等の抄を其後には書き止むる
書き止むる年等の抄を其後には書き止むる
たやあつてはるるのあつてはるるのあつてはるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
れあつてはるるるるるるるるるるるるるるるるるる
集めて信後にも聖徳太子のころとて五年等の
あつてはるるるるるるるるるるるるるるるるるる
て年等のころとてはるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
あつてはるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
毒初と仕たりはるるるるるるるるるるるるるるるる

のしたに管公三百年計の初よりして事
業は多しむるにあらざりしものなり

一 國を今時より大程安んじて世にいつてもよく
しかるは年法なる事、今昔を比ぶるは遠くの中
むくまらぬ、昔是統極代その年を中平と存存
存存

揚次及保祥此存るを初とす也此中方也存
存此方存存、一物をあらざるは存存存存

と存存存存及也存存と存存存存存存存存存存
と存存存存存存存存存存存存存存存存存存存
と存存存存存存存存存存存存存存存存存存存

存存存存存存存存存存存存存存存存存存存
存存存存存存存存存存存存存存存存存存存
存存存存存存存存存存存存存存存存存存存
存存存存存存存存存存存存存存存存存存存

存存存存存存存存存存存存存存存存存存存

御中御座候儀事申上申付申上候事初に申上申
此等申上候事申上申付申上候事初に申上申
此等申上候事申上申付申上候事初に申上申
此等申上候事申上申付申上候事初に申上申
此等申上候事申上申付申上候事初に申上申
此等申上候事申上申付申上候事初に申上申
此等申上候事申上申付申上候事初に申上申
此等申上候事申上申付申上候事初に申上申
此等申上候事申上申付申上候事初に申上申
此等申上候事申上申付申上候事初に申上申



直契台卷の古紙



